

女性自衛官候補生を激励



元気な姿で迎えてくれた
近江自候生（左）と安田自候生（右）

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は、6月8日（金）第9期自衛官候補生課程で教育中の2人を激励するため久里浜駐屯地を訪れた。3月に市ヶ尾募集案内所より自衛官候補生として入隊した近江自候生と安田自候生は、迷彩服に身を包み日焼けした姿で江澤広報官の前に現れた。

近江自候生は、自衛隊音楽隊での勤務を夢見て自衛隊の門戸をたたいた。安田自候生は、父親が警察官ではあったものの自衛官としての道を選択してくれた。入隊に至るまでの諸事情を知っている江澤広報官は、当時の姿より大きく成長した2人の姿に驚いた。その姿はすっかり自衛官らしくなり頼もしさが現れていた。両名からは、6月上旬に行われた野営訓練について「初めての体験でしたが、教育の集大成として頑張ってきました。同期と共に教育隊を無事に修了出来ました」と笑顔で報告があった。6月30日（土）、第9期自衛官候補生課程の修了式が行われ、約3ヶ月過ぎた久里浜駐屯地を離れることとなった。

近江自候生は東部方面通信群（朝霞駐屯地）で通信、安田自候生は対特殊武器衛生隊（三宿駐屯地）で衛生の後期教育をそれぞれ受けることとなった。

市ヶ尾募集案内所は「入隊者が前向きに奮起する姿は、広報官の励みとなった。入隊後の体験談など、生の声として今後の募集活動に活かしていきたい」としている。

募集相談員が地元高校で自衛隊PRに一役



担当教諭（左）と談笑する
石井相談員（右）

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一等陸尉）は、6月19日（火）横浜市内の神奈川県立横浜桜陽高等学校へ募集相談員とともに、自衛隊のPRを行った。

今回地元の学校に自治会としても貢献している石井相談員に、自衛隊志願者に関する情報の提供及び地方協力本部が行う募集広報等に対する支援をお願いしたところ、学校訪問に協力したい旨の申し出があり実現した。

当日は、就職担当の教諭と自衛官になるための受験種目や自衛隊イベント等の話、また地域行事の話題などでも盛り上がり、和気あいあいの内にあっという間に時間が経過していた。

地元の出身ではなく不安を抱いていた広報官にとって、防衛問題に関心をもち、かつ地域情報に精通した望みの厚い募集相談員の協力を受けることができ、心強さと有難味を感じる訪問であった。

学校からも対象者の情報提供や説明会実施についても協力を得ることができ、この訪問も当初の目的を達成できた。

上大岡募集案内所は、「今後も、募集相談員と常に良好な関係を保ちながら学校との密接な連携に努めていき、年度の募集目標を達成したい」としている。

平成30年度第1回広報センターイベント開催 ～護衛艦「やまぎり」&第2術科学校見学～



護衛艦「やまぎり」の説明受

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 山野太資一等海佐）は、6月24日（日）、広報センターイベント「護衛艦「やまぎり」及び第2術科学校の見学を実施した。

このイベントは、神奈川地本の広報センターを広く周知する目的で実施しており、HPや広報センターで公募し、この日は約15倍の倍率を突破した23名が参加した。護衛艦「やまぎり」では、乗員の丁寧な案内を受け、参加者たちは興味津々に艦を回りながら積極的に質問する等、海上自衛隊に対する関心も高く、案内していた乗員も嬉しそうに答えていた。

海上自衛隊横須賀地方総監部へ入ると、この日にたまたま訓練等で艦橋に集合していた護衛艦「かがやき」「いせ」等たくさんの艦艇が係留しており、参加者たちは「大きい！」「すごい！」「すげー！」と、どよめきながら夢中でシャッターを切っていた。

艦艇見学後、第2術科学校へ移動し、海軍機関術参考資料室を見学後、内燃機関実習場や、応急工作を行う施設などを見学した。

イベントに参加者からは、「日常生活をしていると国を守ってくれる方々のことをつい忘れがちです。今回は子供に実際に見て考えて欲しいといったのことが出来るかを知ることが出来た。護衛艦の方々が、分かりやすく説明して下さい、とても楽しかったです。ありがとうございました。」などの声が聞かれ、自衛隊に対する大きな理解を得ることができた。

神奈川地本では、「趣向を凝らしたイベントを定期的に企画することで、広報センターを周知し、来館者の増加、募集基盤及び防衛基盤の拡充につなげていきたい」としている。



艦橋にて各種計器の説明受



主砲の前で記念撮影



内燃機関実習場の見学



海軍機関術参考資料室の見学



20倍双眼鏡をのぞく参加者